

限界を超え 飛びたつ音よ 永遠の風になれ

ことし、県内でインターハイが開催されます！

女子バレーボールと弓道を、川越市内で開催！

七月二十八日～八月二十日まで、平成二十年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が埼玉県で開催されます。全二十九種目のうち、川越市を会場として行われるのはバレーボール女子と弓道です。この記事ではインターハイを盛り上げるため、市内の高校のうちインターハイ出場が有力視されている、バレーボール女子の市立川越高校と弓道の県立川越高校・川越総合高校を紹介します。

全

国大会三十年連続出場

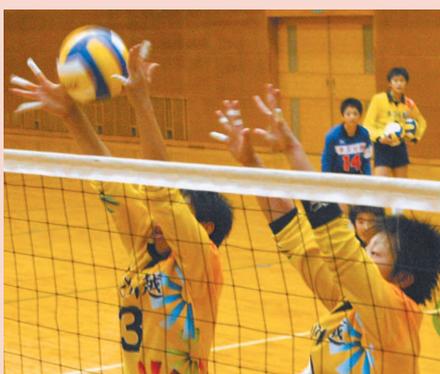
の実績を持つ、市立川越高校女子バレーボール部。そのため、選手の皆さんは常に「勝つて当然」というプレッシャーと戦っています。

県予選を勝ち抜いた、昨年の全国高等学校バレーボール選抜優勝大会の出場メンバーが主軸になっている同校。粘り強い守りからコンビネーション攻撃で得点を重ねるのが

得意です。コンビネーション

を高めるため、連日五時間以上の練習をしています。また、試合中のあらゆる状況に対応できるように、練習でも常に試合を意識。激しい練習を共に乗り越えることで、チーム

の連帯感が生まれています。実績と実力は、申し分のない同校。しかし、バレーボールは精神面の強さが不可欠です。ミスをしたときなどに、



守りでも攻撃でもあるブロックは、試合の流れを左右する重要な要因の1つ

崩れずに持ちこたえることができる精神力を身に付けることが、部員の皆さん全員にとって大きな課題の一つです。

インターハイに向けて、一点を取るために集中力にさらなる磨きをかける同校。地元開催のため、出場枠は県内三校です。期待に応えるためにも、まずは県予選の優勝を目標に練習に励んでいます。

インターハイはラリーポイント制（サーブ権の有無にかかわらず得点することができる）、25点の3セットマッチで勝敗を決めます。一瞬の気のゆるみが得点につながるため、練習で行われた紅白戦でも本番さながらの迫力と緊張感が感じられました



このタイトルは、本大会のスローガン毛筆作品です



みごと、4本すべての的中!

川越総合高校の練習の様子。写真のように、矢が放たれる直前の状態を「会（かい）」といいます。「会」の時間を十分に取り、精神・身体・弓矢が一体となることで、矢は的に吸い込まれるように飛んでいきます



県立川越高校の練習で行われた坐射（ざしや）。弓の長さは2m21cmが基準です。試合では時間の制限があるため、矢を慎重かつすばやくつがえる必要があります



座ったまま矢をつがえてから立ち上がり、鋭いまま矢の的を見据えます。ここから右手で引くよりも左手で押すようにして、体の縦の線と両腕の線が胸の中心で直角に交わるように弓を引きます



教えてコバトン！ 弓道のルール

インターハイで行われるのは近的競技。射位（矢を射る場所）からのまで28m、的の大きさは直径36cmです。勝敗は矢が的に当たった数で決まります。

団体競技

1団体5人で各自4射、計20射で競います。予選は的中数上位32チームが通過します。同中の場合は競射（1人1射ずつ射る）で勝敗を決めます。決勝はトーナメント方式で行います。

個人競技

予選・準決勝は4射で競い、それぞれの中数3中以上で通過します。決勝は射詰（1射ずつ行い、的中した選手の勝ち残り）で行います。

張 りつめた空気を切り裂く、矢の羽音だけが響く練習場。弓道が静のスポーツとも呼ばれる理由です。インターハイには県内から団体二校、個人四人が出場できます。弓道は、一本の矢で勝敗が決まる競技。そのため、有力校が予選敗退することも珍しくないそうです。

川越総合高校では、入部後に的前に立って射る練習を始めます。それは的中することで、弓道の楽しさを知ってもらうためです。毎日試合形式の練習を行い、成績を記録しています。月ごとに集計し成績優秀者が決めることで、日々選手が競い合うだけでなく、試合感覚も身に付けることができるそうです。

県立川越高校では、入部後基本動作を段階的に習得し、部内試験を経てから射ることができるようになります。しっかりとした形を作ることに入れています。形ができていけば、当てようとしなくても矢は的に当たっていくのです。練習は一日四時間以上で、多いときには百本以上の矢を射ることもあります。

定まった作法に従い、黙々と矢を射る選手の姿は美しく見えました。県内トップクラスの實力がある両校。インターハイ出場を目指し、一本の矢に気持ちを込めて練習を続けていきます。